

令和4年度第1回大野市環境保全対策審議会の概要

日 時 令和5年3月23日(木)
午前10時～午前11時45分
場 所 大野市役所2階 大会議室

1 正副会長選出

会長に小松節子委員、副会長に飯田俊市郎委員を選出

2 会長あいさつ 小松会長あいさつ

3 議事

(1) 環境基本計画令和3年度年次報告書について

- ・事務局より、資料1「環境基本計画令和3年度年次報告書」に基づき、令和3年度末の大野市内の環境の概況や第三期大野市環境基本計画に基づく令和3年度の取組状況について説明を行った。
- ・委員からの意見等は次のとおり。(要旨)

<大野市内の温室効果ガス(CO₂)の排出量について>

○委員 : 市内温室効果ガス排出量の実績値が、令和3年度ではなく元年度なのはなぜか。

→事務局 : 環境省が公表している数値を採用しているため。統計データ等を用いて算出されていることから令和元年度のもので環境省から最新値として公表されている。

<令和3年度事業のコロナの影響について>

○委員 : 令和3年度実績のうちいくつかは新型コロナウイルス感染症の影響があったと報告があったが、令和2年度もあったのでは。

→事務局 : 令和2年度から引き続き、令和3年度も、イトヨの里の入館者数がコロナ禍以前に比べ少なくなっているなど、影響を受けている。

<不法投棄対策について>

○委員 : 本年度、自分の行政区内にある公園の一角に市の不法投棄看板を設置したところ、不法投棄が減ったという効果があったことを報告する。

<空き家対策について>

○委員 : 市の事業を活用し、自分の行政区内にあった空き家2件を解体処分するなど、空き家の適正管理ができたことを報告する。

<木質バイオマスの利活用について>

○委員 : 木質バイオマス発電に活用している間伐材の量が減っている理由は。

→事務局 : ウッドショックの影響で、今まで燃料として使っていた間伐材等も建築用の木材としての需要が高まっている。そのため、市内の間伐材も市外に流通してしまい供給量が減った。できるだけ市内で循環するよう努めていきたい。

<ごみ減量化について>

○委員：令和3年度の市民1人1日当たりのごみ排出量は、令和2年度に比べ減少しているのは、人口減少に比例するものか。

→事務局：人口減少に比例するものではない。令和3年度は令和2年度に比べ減少したが、平成10年代の800g/台に比べれば高止まりしている。引き続きごみ減量化について啓発していきたい。また、プラスチックごみの分別収集を令和6年度から開始予定。

(2)大野市脱炭素ビジョンの策定について

(3)第三期大野市環境基本計画の改定について

- ・事務局より、資料2-01、資料2-02、資料3に基づき、本年度末までに策定予定の大野市脱炭素ビジョンの概要と、脱炭素ビジョン策定に伴い改定予定の第三期大野市環境基本計画の改定方針を説明した。
- ・委員からの意見等は次のとおり。(要旨)

<脱炭素に資する取り組みについて>

○委員：カーボンオフセットとクレジットは、市内での登録はあるのか。

→事務局：今現在はない。CO₂実質排出量マイナス分について経済価値を見だし、市内事業所での活用や、自治体間での融通を研究していきたい。

○委員：薪・灯油は、薪の方が高いので、灯油を使ってしまう。薪を使うことに補助できると良い。

○委員：脱炭素に向けて、家庭や事業所に分かるような説明の仕方や仕組みを作ると良い。市民に浸透しなければ、何もならない。EVの充電設備やプラごみ分別など、市民の意識を高めなければ、達成できない。非常に大切なことなので、積極的にPRしてほしい。

○委員：家庭・事業所のモデルになるような建物を造って、脱炭素の流れの見える化ができると面白いのでは。その中で、これがお得だと分かるとなお良い。

○委員：脱炭素ビジョンに記載の人材育成について具体的に教えてほしい。

→事務局：脱炭素の取り組みに賛同する事業者や市民を募り、賛同者同士のネットワークを構築する。ネットワークを通じて、事業者向けのセミナーや市民向けの基礎講座などを開催し人材育成を図っていくとともに、ネットワーク参加の事業者間での脱炭素課題の解決や、環境教育の実施をするなど、市民事業者一丸となった人材育成の体制を目指していきたい。

(4)令和5年度の主な取り組みについて

- ・事務局より、資料4「R5年度の主な取り組み(環境・水循環課)」に基づき、説明を行った。
- ・委員からの意見等は次のとおり。(要旨)

<環境教育について>

○委員：昨年度の濁水時に、河川の水生生物が多く死んでしまった。濁水時の生物保護の対

応を事前に考えておくとともに、これを機に水循環の大切さを教え市民の誇りとして意識醸成を図ることも必要。

○委員： 脱炭素に関する環境教育を小中学生だけでなく、高校生にも実施すると良い。

<プラごみの分別について>

○委員： どのように分別する予定か

→事務局： プラスチックのうち、汚れていないものを、新たに設けるプラスチックごみの日に出していただき、製品プラとして再利用する。シャンプーボトルなどはビュークリーンおくえつで焼却処分する。汚れているものや金属が含まれるものは、リサイクルの工程に支障があるので、家庭から出す段階での市民による分別をお願いする。

○委員： 令和6年4月から始まることなので、市民への十分な説明をお願いしたい。

→事務局： 本年10月以降、住民説明会を実施し、市民への理解と協力をお願いしていきたい。

3 その他

○委員： 普及啓発と意思表示のため、職員はSDGsバッジをつけると良いと思う。

・次回の開催は、翌年度の10月開催予定。主な議題は「令和4年度年次報告書について」と「大野市環境基本計画の改定について」の2点を予定。

4 閉会あいさつ 飯田副会長あいさつ